

JA全農 とくしま情報

地域の話題や活動のご報告
今後のお知らせなど
JA全農とくしまと、あなたをつなぐ
コミュニケーション情報誌

2024
6月号
No.776



徳島インディゴソックスホーム公式戦で両チームにずすだちをプレゼント(むつみスタジアム)

マンスリーレポート 2

- ・第63回全農徳島県本部青果販売総体会議
- ・全農徳島県本部阿波配送センター竣工式
- ・徳島インディゴソックスホーム公式戦でPR
- ・第1回果樹部会「スダチ・温州ミカン園地巡回および情報交換会」
- ・徳島市の圃場でリゾケア® XLのドローン播種実証試験
- ・大阪や京都の小学生がサツマイモの食育学習
- ・鳴門らっきょ
- ・主産県合同で料理講習会

旬の野菜でおうちごはん 8

- ・らっきょうのコールスローサラダ

トピックス 9

- ・営農コラム

交通安全のお知らせ 10

- ・横断歩道における歩行者優先について

マンスリーレポート

～令和6年度園芸取扱販売計画388億円～

第63回全農徳島県本部青果販売総体会議

5月17日、当県本部園芸部は、徳島市万代町の徳島グランヴィリオホテルで「第63回全農徳島県本部青果販売総体会議」を開催しました。

この会議は、徳島県産青果物・花きの生産・流通・販売に携わる市場・JA・行政等の関係者が一堂に会して本県農業を取り巻く課題に向き合い、一致団結して生産・販売拡大をめざすことを目的として毎年開催しているもので、63回目となる今回はパートナー市場40社の代表者、県内5JAの役職員、徳島県や関係機関などから約170人が出席しました。

開会にあたり、主催者を代表して前田安夫運営委員会会長が、「生産コストの価格転嫁、労働者不足、物流問題など多くの課題があるなか、徳島県本部においてはJA・市場・行政・企業等と広く連携して生産拡大と有利販売に取り組み、『園芸事業のバリューチェーン構築』に向けた具体策を進めることでJA・組合員の期待と負託に応えてまいります」と挨拶をおこないました。

また、来賓の後藤田正純徳島県知事、元木章生徳島県議会議長、橋本浩徳島県農業協同組合中央会副会長よりご祝辞をいただきました。

本会議では、坂本雅彦県本部長が、令和6年度事業計画について次のとおり説明をおこないました。



第63回全農徳島県本部青果販売総体会議



主催者あいさつを行う前田安夫運営委員会会長



令和6年度事業計画について説明を行う坂本雅彦県本部長



指定証を受け取る東果大阪株式会社・矢野裕二郎代表取締役社長(右)



講演を行う野崎和美代表

園芸事業の令和6年度販売計画は、市場野菜302億円、市場果実38億円、市場花き・花木10億円、直販加工品38億円の合計388億円の達成に取り組みます。主な品目別には、ニンジン70億円、かんしょ61億500万円、ブロッコリー31億5000万円、レンコン19億2500万円などを計画しています。

事業戦略としては、パートナー市場40社との連携による有利販売、県本部青果センターの活用による直販拡大、全農荷受システム導入や県域集出荷選別施設の検討といった園芸事業体制の構築により、系統園芸事業の維持・強化をめざします。

また、平成29年度より開始したパートナー市場との直接販売取引の取り組みについては、令和6年度で直接販売(予約相対取引+直販取引)を取扱高の過半とする目標の達成をめざします。

パートナー市場への指定証交付では、令和6年度の指定市場40社(青果重点19社、青果準15社、花き重点6社)を代表して東果大阪株式会社の矢野裕二郎代表取締役社長が指定証を受け取りました。また、これを受けて京都青果合同株式会社の内田隆代表取締役社長が市場代表挨拶をおこないました。

続いて、当県本部の園芸事業のアドバイザーであるAGSN野崎和美代表による「アフターコロナのマーケット動向と産地対応について」と題した講演がおこなわれ、「今後は食品流通以外の業種とも繋がりながら、デジタル化や非接触行動といった新たな価値観への対応が求められてくる」といった講演内容に出席者は熱心に耳を傾けていました。

終わりに、佐々木伸夫運営委員会副会長より「本日のご提言やご講演の内容を、系統園芸事業の発展に役立ててまいります」と閉会の挨拶がおこなわれ、盛会のうちに終了しました。

～県西部の新たな配送拠点でJA経済事業の支援～

全農徳島県本部阿波配送センター竣工式

5月15日、当県本部は、阿波配送センター(阿波市阿波町)において、竣工式をおこないました。

県西部に新たな配送拠点を設置することで、物流業務の効率化を目指し、配送サービス向上による農家組合員へのメリット創出とJA経済事業の支援に繋げることを目的として新設されました。

竣工式では、JA徳島県・当県本部役職員、工事関係者など23人が出席し、八幡神社宮司による神事がつつがなく執りおこなわれました。また、式典では、当県本部の前田安夫運営委員会会長より、株式会社吉岡組・吉岡健治代表取締役へ施工業務への尽力に対し感謝状を贈呈しました。

なお、設計監理はJA全農西日本広域施設農住事業所徳島施設農住事務所がおこないました。

施設の概要は次のとおりです。

■敷地面積:3,800㎡

■建物概要【構造】:鉄骨造平屋建て

【延床面積】:1,949㎡ ●倉庫(2棟) 1,594㎡ うち毒物劇物倉庫 39㎡

●作業用上屋 288㎡ ●事務所 67㎡

当県本部はJAや農家組合員の更なるニーズに対応したサービスを提供するために、様々な購買・販売事業の改善・改革に取り組んでまいります。



神事を執りおこなう八幡神社宮司



全農徳島県本部阿波配送センター



施主代表として感謝を述べる坂本雅彦県本部長



前田安夫会長(左)から吉岡健治代表取締役(右)へ感謝状を贈呈



初荷の様子

～徳島すだちの消費宣伝～

徳島インディゴソックスホーム公式戦でPR

5月3日、徳島県と徳島県すだち・ゆこう消費推進協議会(会長=坂本雅彦県本部長)は、徳島市のむつみスタジアム(蔵本公園野球場)で開催された四国アイランドリーグPlus2024公式戦「徳島インディゴソックスvs香川オリーブガイナーズ」において、徳島すだちの消費宣伝をおこないました。

この日は親子連れなど1,162人が来場し、開場時刻の16時からすだち大使の中川かりんさんと当県本部の園芸販売課職員、徳島県のマスコットキャラクター「すだちくん」らが入場ゲートで徳島すだちとすだち飲料(ずすだち)を先着100人に配布しました。

試合前セレモニーでは、志田敏郎徳島県副知事のあいさつや始球式に続いて、中川さんとすだちくんが両チームにずすだちを贈呈しました。

また、5回裏終了後には、中川さんがすだちくんや徳島インディゴソックスのマスコット「Mr.インディー」らとともに一塁側ベンチ前に登場し、徳島すだちの食べ方を提案したり地理的表示(GI)保護制度の認証を受けたことを伝え「徳島すだちで梅雨も夏も乗り切りましょう!」と笑顔でPRをおこないました。

なお、試合は徳島インディゴソックスが10-1で、今季2度目の3連勝を飾りました。



入場ゲートでハウススタチとずすだちを配布するすだち大使



徳島インディゴソックスvs香川オリーブガイナーズ試合前セレモニー

マンスリーレポート

～産地と情報交換し効果的な果樹生産へ～

第1回果樹部会「スダチ・温州ミカン園地巡回および情報交換会」

5月13日、徳島県農業技術普及連絡協議会(会長=坂本雅彦県本部長)は、県下3JA(徳島市・東とくしま・徳島県)の担当者、徳島県、当県本部など関係者30人出席のもと、令和6年度第1回果樹部会「スダチ・温州ミカン園地巡回および情報交換会」を開催しました。

本協議会では、県内果樹の生産振興や関係機関との情報共有、栽培技術向上を目的に年3～4回程度果樹部会を開催しています。

第1回目の今回は、出席者全員で神山町、佐那河内村、勝浦町の園地を巡回し、露地スダチや温州ミカンの着花調査や生育状況の確認等をおこないました。

園地巡回後、勝浦郡勝浦町のかんきつテラス徳島で開催した情報交換会では、当県本部営農資材部営農支援課の大塚雅信課長のあいさつに続き、JA担当者より各園地の状況について報告がありました。

営農支援課の森聡技術主管は「スダチは、一昨年は極端な裏年でありましたが、昨年はある程度の表年となりました。今年の着花は平年比約7割程度となっており、本年は裏年となる見込みです。今後今ある花を落下させずに大事に育てていくことが重要です」と説明しました。

続いて、生産者の負担軽減のために実施しているスマート農業の実証試験について検討をおこないました。各農業支援センターや営農支援課より令和5年度におこなったドローン防除や自律走行無人草刈機による除草等について試験内容や結果の報告があり、出席者は今後の課題や実証試験方法など活発に意見交換をおこないました。



園地を視察する関係者



情報交換会であいさつをする大塚雅信課長

～水稻直播栽培の普及へ～

徳島市の圃場でリゾケア® XLのドローン播種実証試験

5月24日、当県本部営農支援課は第一讃陽ビニール株式会社の協力のもと、徳島県徳島市の水田圃場で、シンジェンタジャパン株式会社が開発した湛水直播向けコーティング処理済み種子「リゾケア® XL」の農業用ドローンによる播種作業の実証試験をおこない、県やJA職員など約30人が参加しました。

水稻生産者の高齢化や人手不足という大きな課題に向き合い、労働時間や技術的な負荷を減らして生産性を高めることを目的として開発された「リゾケア® XL」は、様々な播種方法(乗用播種機・背負式動力散粒機・ドローン)に対応可能で圃場条件に合わせて使い分けができます。特にドローン播種は従来の移植作業と比べ労働時間の削減と労働負荷の軽減が期待でき、特に大規模圃場での播種については効果が大きいと考えられます。

今回のリゾケア® XLのドローン播種実証試験は、徳島県では初めての取り組みで、中規模圃場で実施し、実際の播種作業時間調査や生育ステージ初期の鳥獣害対策、発芽率調査を行います。また、生育ステージ中・後期では水管理や本田防除を含め、収穫までの状況を確認し、成果や課題を把握していくことを目的としています。

【実証の概略】

- 実証ほ場:徳島県徳島市 天羽様所有圃場
- 実施面積:15a ●水稻品種:コシヒカリ(富山県産)
- 播種量: 6kg(乾もみ重量:4kg)
- ドローン:DJI JAPAN 株式会社農業用ドローンDJI Agras T10



試験前に説明をする営農支援課・橋本良職員



ドローン播種の様子

～栽培体験を通して食の大切さを伝える～

大阪や京都の小学生がサツマイモの食育学習

当県本部園芸部は、子供たちに農産物を育てる大変さと喜び、また食べ物を大切にする心や農家生産者の方々の思いやる気持ちを育んでもらうため、県内JAをはじめ、パートナー市場や関係機関と連携し定期的に小学校での栽培学習会を実施しています。

5月には、京阪神の小学校4校にJA里浦から甘藷の苗を提供し「サツマイモ食育学習会」を開催しました。各小学校の生徒は、JA、市場、県、当県本部の職員から、なんと金時の特徴や苗の植え方、上手な育て方についての講義を受けたり、実際に圃場に出て定植作業を体験しました。

生徒たちは動画やクイズを交えた授業にとっても興味を示し、楽しく植え付けを学び、食育を体験しました。



◆**大阪市立岸里小学校** 5月20日、JA里浦、大果大阪青果株式会社、徳島県関西本部協力のもと、大阪市西成区の市立岸里小学校の2年生(37人)を対象に開催しました。(教室授業風景と圃場での作業風景写真掲載)



◆**大阪市立塩草立葉小学校** 5月20日、JA里浦、大果大阪青果株式会社、徳島県関西本部協力のもと、大阪市浪速区の市立塩草立葉小学校の2年生(114人)を対象に開催しました。(教室授業風景と圃場での作業風景写真掲載)



◆**京都市立向島藤の木小学校** 5月24日、JA里浦、京都青果合同株式会社、徳島県関西本部協力のもと、京都市伏見区の市立向島藤の木小学校の1年生、2年生(計36人)を対象に開催しました。(教室授業風景と圃場での作業風景写真掲載)



◆**大阪市立焼野小学校** 5月27日、大果大阪青果株式会社協力のもと、大阪市鶴見区の市立焼野小学校の2年生(58人)を対象に開催しました。(教室授業風景写真掲載)



当県本部は徳島県産 「鳴門らっきょ」 の宣伝活動を実施し 販売促進を図っています

鳴門海峡に面した大毛島では、保肥力・排水性が良い、ミネラルたっぷりの海砂「銀砂」でらっきょうを栽培しています。高速道路の鳴門北ICを降りると、一面にらっきょう畑が広がっています。

「銀砂」で育った「鳴門らっきょ」は色白でシャキシャキの食感です。

収穫・出荷時期は5月～6月になります。また、徳島県はらっきょうの生産量全国4位(2020年産)です。



大毛島
らっきょう ほ場

「鳴門らっきょ」は、
7月・8月から植え付けが始まり、
約9ヶ月間愛情を込めて
育てられます。



鳴門市大毛島特産の
「鳴門らっきょ」には、
2種類の商品があります。



あっさりしていて
すぐ漬かる

大玉らっきょう(青)

らっきょうの代表的な品種。通称らくだ。
在来種で大球。各地で栽培されている。

- 植え付け時期: 7月下旬～8月中旬
- 出荷時期: 5月連休明けから

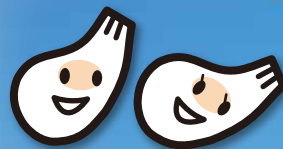


漬けてから一年中
シャキシャキで
食べられる

玉らっきょう(緑)

昭和32年に大毛島独自ブランド確立
のため導入された品種。色白で小球。
全国トップクラスの生産量。

- 植え付け時期: 8月下旬～9月下旬
- 出荷時期: 5月中旬から



1日3～4個のらっきょうで
身体の調子を
整えましょう！



甘酢漬けらっきょうを 使ったレシピを紹介

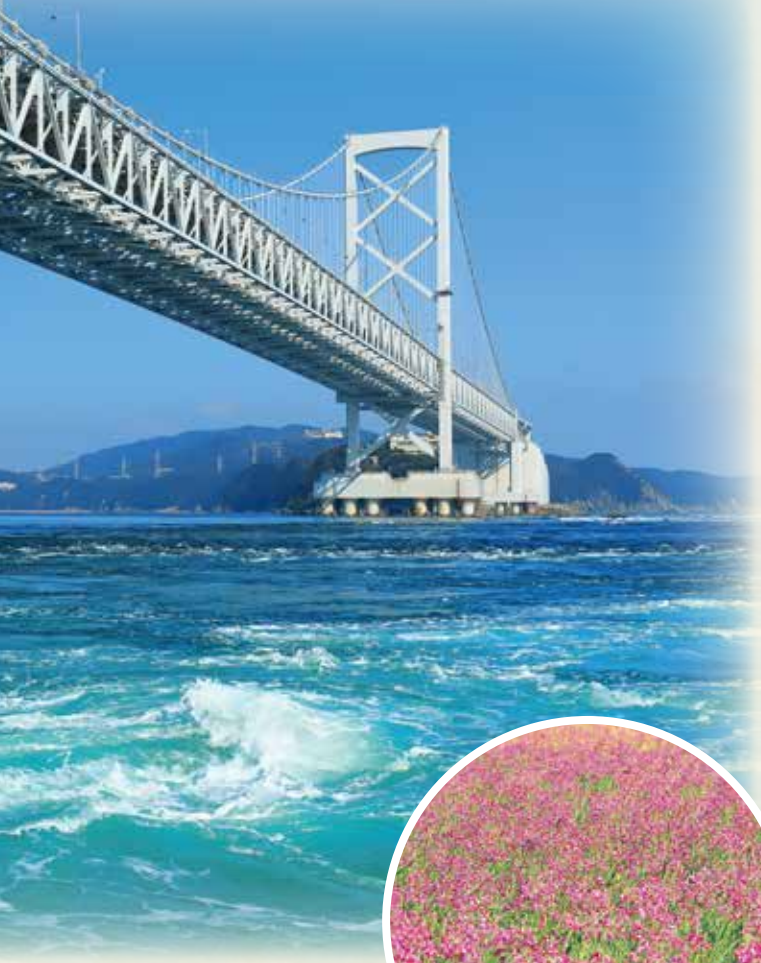


- ・ もも鶏肉(豚ロース肉でもいい)
- ・ 生らっきょう(甘酢らっきょうでもいい)
- ・ 卵 1個
- ・ 小麦粉 適量
- ・ 冷水 適量
- ・ パン粉 適量
- ・ 塩・こしょう 少々
- ・ サラダ油 適量

らっきょうの 串かつ

作り方

- ① もも鶏肉を一口大に切る
- ② ①の鶏肉とらっきょうを交互に串に刺しておく
- ③ ②に塩・こしょうをふる
- ④ 卵・小麦粉・冷水で衣を作る
- ⑤ 衣に ③をくぐらせパン粉をまぶしておく
- ⑥ サラダ油を熱し、ゆっくりとカラッと揚げる



らっきょうの花

苦手な人でも「美味しい!」と感動します



らっきょう タルタルソース

- ・マヨネーズ……………1/2カップ
- ・ゆで卵(荒みじん切り)……………1個
- ・甘酢らっきょう(みじん切り)………20g
- ・きゅうり(みじん切り)……………1/3本
- ・塩・こしょう……………少々



作り方

- ① ゆで卵、荒みじん切りに
甘酢らっきょう、きゅうりをみじん切りにする
- ② 塩・こしょうをふり、材料を合わせ、よく混ぜる
- ③ パンやお好みの食材にかけてどうぞ

～甘酢漬けやサラダでらっきょうのPR～ 主産県合同で料理講習会

5月10日、当県本部大阪事務所は、JA全農とっとり、JA高知県、JA鹿児島県経済連と協力し、大阪市中央卸売市場本場・業務管理棟内の調理室でらっきょう主産県合同PRおよび料理講習会を開催しました。

この取り組みは、市場と仲卸の担当者を対象に、主産県が一体となって産地の生産状況や漬け方、調理方法を周知し、今後の商談・販売に活かしてもらうことを目的としており、当日は約20人が参加しました。

最初に各産地の担当者が栽培地域やらっきょうの特色など産地紹介や説明をおこない、当県本部大阪事務所の前田凌職員は徳島県の「鳴門らっきょ」について「徳島県で最も大きい島である『大毛島』で栽培しています。鳴門海峡に面した大毛島では、ミネラルを豊富に含んだ海砂で栽培しており、色白で食感の良いところが特徴です」と説明しました。

続いて、JA鳥取いなばの加武田恵子講師が「らっきょうの簡単漬け方」を指導し、出席者は各自500gずつ甘酢漬けを調理しました。また、らっきょうを使用した簡単料理として「サラダ」「酢の物」「天ぷら」「焼らっきょう」を紹介し、実際に試食をしました。

参加した市場担当者からは「想像より簡単に漬けられることがわかりました」「甘酢漬け以外の料理を食べたのは初めて」といった声が聞かれました。

当県本部園芸部は、今後も他県と協力しながら、徳島県産「鳴門らっきょ」の消費拡大に努めてまいります。



甘酢漬けを調理する参加者



徳島県産鳴門らっきょの説明をする前田凌職員



らっきょうのコールスローサラダ



▼材料(4人分)

キャベツ……………1/2玉
人参……………2/3本
らっきょう……………8粒

A マヨネーズ……………大さじ4
塩、こしょう……………各適量

▼作り方



① キャベツと人参は細切りにしてボウルに入れ、塩(小1)を混ぜて10分おく。



② ぎゅっと手で絞ってよく水気を切る。

③ らっきょうのみじん切りとAを混ぜ、冷蔵庫で冷やす。

POINT

手で絞った後、ザルにとり更に水気を切る。



料理研究家 HITOMI <https://hitomi-cook.com/>

◎免許：調理師免許、食空間テーブルコーディネーター2級、JA全農とくしま園芸部 クッキングアドバイザー
◎賞：2014年NHK社会貢献賞授与 ◎活動歴：TV=NHK徳島放送局料理コーナーレギュラー出演／ラジオ=TBS「伊集院光とラジオと」に毎月レシピ提供 ◎JA全農とくしまとのコラボイベント：大阪ガスハグミュージアムにて鰻を使った爽やか料理講習会／大阪中央卸市場にて徳島県の食材を使った料理講習会 ◎カルチャー講師：兵庫イオンカルチャー(姫路、加古川、明石の3店舗)講師／神戸市立長田区勤労センター、神戸市立西区民センター講師 ◎店舗用レシピ開発、商工会での商品開発など

営農コラム

水稲・果樹の適正防除について ～斑点米カメムシ類の防除をしましょう～

営農支援課 技術主管 吉永 博明

本年度、4月には病虫害防除所において果樹カメムシ類の注意報が発生されました。斑点米カメムシ類は水稲栽培の重要害虫です。水稲においては籾を吸汁し斑点米を発生させます。わずかな斑点米の発生でも品質低下を起し等級落ちとなります。主な斑点米カメムシ類としては、クモヘリカメムシ・ホソハリカメムシ・ミナミアオカメムシ・アカスジカスミカメ等があげられます。



クモヘリカメムシ



ホソハリカメムシ



ミナミアオカメムシ



アカスジカスミカメ

【写真:シンジェンタジャパン(株) 提供】

大型カメムシ類においては吸汁されると比較的大きな斑点が発生します。小型のカメムシ類になると口器が弱く籾を刺すことができず、籾の隙間が吸汁され側面に斑点が発生します。この被害粒には尻黒米やくさび型斑点が確認されます。



斑点米は
落等の原因に
なります!!



斑点米カメムシ類はイネ科植物の種子を好むため、周辺の除草が大事となります。水田周辺の農道・畦畔のイネ科雑草には斑点米カメムシ類の発生源・生息源となり水田内へと侵入します。



水稲出穂2～3週間前及び出穂期頃には水田周辺を除草しカメムシ類の生息しにくい環境を整え斑点米の発生を防ぎましょう。適正な時期に防除作業を行うことで、収量の増加・等級比率の向上により所得向上の要因となります。天候・農薬の適正使用に注意し、取り組んでいきましょう。



うちんくのペット

ホッと一息 可愛いペットで癒されましょう♪



ボク、
イケメンにやあ



ごはん、
ちょうだい!

ネコ(雑種)大塚 にやあ (♂・7歳)

性格

マイペース

趣味

昼寝と散歩

好きなもの

いなばのとりみ缶



※うちんくのペットに掲載ご希望の方は、JA全農とくしま広報室(TEL088-634-2462)までご連絡ください。

～徳島県産農産物と飲料を販売～

2024四国放送まつり

5月18日と19日の2日間、当県本部は、板野郡板野町のあすたむらんど徳島で開催された「2024四国放送まつり」にブース出店し、徳島県産農産物と飲料の販売をおこないました。

このイベントは、平成12年(2000年)から続く地元放送局主催のライブイベントで、今年も2日間にわたって有名アーティストが出演した他、ラジオの公開生放送やトークショー、物販などがおこなわれました。



四国放送ラジオのインタビューで
徳島県産農産物のPRをする園芸販売課職員



ブロッコリー大好き!

当県本部のブースでは、園芸販売課の職員が春にんじんやブロッコリー、ミニトマトなどの徳島県産農産物や、徳島県産飲料「ザすだち」「すだち微炭酸」の販売をおこない、「野菜が新鮮で安い!」とお客様から温かい声をいただきました。

また、1日目は四国放送ラジオ中継で、園芸販売課の足立悠里職員がブースの紹介と県産農産物のPRをおこないました。2日目はあいにくの雨模様でしたが、終日多くの来場者で賑わいました。

交通安全のお知らせ

横断歩道における歩行者優先について

横断歩道に接近する場合

車は、横断歩道に接近する場合は、その横断歩道の直前(停止線の直前)で停止できるような速度で進行しなければなりません。

横断歩行者がいる場合の一時停止

車は、進路の前方の横断歩道を横断し、または横断しようとする歩行者がいるときは、その横断歩道の直前で一時停止し、歩行者の通行を妨げないようにしなければなりません。

側方通過前の一時停止

車は、横断歩道またはその手前の直前で停止している車がある場合、停止している車の側方を通過して前方に出ようとするときは、前方に出る前に一時停止しなければなりません。

横断歩道手前の追い抜き禁止

車は、横断歩道およびその手前の側端から30メートル以内では、前方を進行している他の車の側方を通過して前に出はいけません。

※違反点数2点

※反則金 大型:12000円 普通:9000円
二輪:7000円 原付:6000円

歩行者の通行方法について

横断歩道の利用

歩行者は、横断歩道のある場所の付近では、その横断歩道によって横断しなければなりません。

斜め横断の禁止

歩行者は、斜めに道路を横断してはいけません。

直前直後の横断の禁止

歩行者は、車等の直前または直後で横断してはなりません。

横断禁止場所

歩行者は、道路標識によって横断が禁止されている道路の部分では横断してはいけません。



令和5年中に、歩行中に交通事故で亡くなった方は15人(前年比+9人)、そのうち11人の方が道路を横断中に被害にあっています。運転手の方は、周囲の状況をよく確認して運転しましょう!また、歩行者が最優先される横断歩道ですが、危険な運転をする車もあります。自身の身を守るためにも、横断する前は左右の安全確認を行ってください。

徳島県警察本部 交通企画課



～当選者に春にんじんとザ・キャロットをプレゼント～

大阪で徳島県産 春にんじんキャンペーン

5月23日、徳島県にんじん振興協議会(会長＝坂本雅彦県本部長)と当県本部は、大阪市のダイビル本館で「徳島県産春にんじんキャンペーン」の贈呈式を実施しました。

このキャンペーンは、大阪市内3カ所のダイビルで「春にんじん生搾りジュース」無料試飲会をおこない、試飲後Webアンケートに回答した方のなかから、抽選で3人が当選するというもので、約100人の応募がありました。



試飲の様子

当日は、当県本部大阪事務所の前田凌職員が、副賞の春にんじん10kgと徳島県産春にんじんとスダチを使用したジュース「ザ・キャロット」1箱を当選者に手渡しました。当選された方は「徳島県産春にんじんの甘さと美味しさに感動し、試飲会后すぐにオンラインショップ『JAタウン』でザ・キャロットを購入したので、今回の当選はとても嬉しいです」と笑顔でコメントしてくれました。



当選者(右)へ徳島県産春にんじんとザ・キャロットを贈呈



徳島県産春にんじん生搾りジュース

徳島農機事務所

～最新の機能で故障や異常を迅速に対応～

ダイアグマスター研修会

5月28日、全農中四国広域農機事業所徳島農機事務所は、当県本部会議室および中央農機整備センターでダイアグマスター研修会を開催し、JA農機担当職員や同事務所職員など19人が参加しました。

ダイアグマスターとは、クボタの電子制御式ディーゼルエンジンを診断するための診断ツール用ソフトウェアのことです。

研修会では、コモンレールエンジンやDPF(ススなどの粒子状の物質であるPMを捕集するための装置)の基礎について学んだ後、中央農機整備センターに移動



あいさつをする徳島農機事務所・橋本康祐所長

し、コモンレールエンジンの実機の確認やダイアグマスターでのDPF再生方法等を体験しました。

ダイアグマスターをインストールしたパソコンをEUCに接続し、電子制御のエンジンが発している「出力」「回転数」などのデジタル信号を取得、ダイアグマスターの画面にその状況を表示します。故障や異常を検知した場合は「故障コード」を表示し、そのトラブルシューティングに迅速で適切な対応が可能となります。

徳島農機事務所では、今後もこのような研修会を適時開催することで、農機担当者に最新技術や商品知識の習得を促し、JA農機事業のサービスの拡充を図ってまいります。



ダイアグマスターの取り扱い実習の様子



おいしい日本と
暮らそう。



JAタウンオフィシャルサポーター
ゆるふわたいむ3代目MC

あきもと まなつ
秋元 真夏

JAタウンは、全国農業協同組合連合会（JA全農）が運営する産地直送通販サイトです。
「おいしい日本と暮らそう。」をテーマに、「JAタウン」に出店する全国の農協（JA）などが、各産地で育まれた旬の農畜産物や
特産品を、インターネットを通じてお客さまに直接お届けし、食を通じて豊かな暮らしの実現を目指しています。

JAタウンは
コチラ ▶▶▶



お問い合わせは最寄りのJAへ



JAタウン
「新鮮大好き徳島」



JA全農とくしま
YouTubeチャンネル



JA全農とくしま
Instagram



JA全農とくしま
ホームページ

全農グループ経営理念

私たち全農グループは、**生産者と消費者を
安心して結ぶ懸け橋** になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

全農

JA全農とくしま

<https://www.zennoh.or.jp/tm/>



「JA全農とくしま情報」に 関するお問い合わせ先

本紙「JA全農とくしま情報」の購読料・配送料は
無料です。送付先の氏名・住所変更や、
送付の停止につきましては、
JA全農とくしま企画管理課広報室
（電話 088-634-2462）
までご連絡ください。

